

黒島小・中学校のあり方検討委員会だより No.8

平成29年7月吉日

黒島町民の皆様へ

黒島小・中学校のあり方検討委員会
会 長 大 村 靖

今回は、5月8日に実施した第6回あり方検討委員会の様子についてお知らせします。

1 第6回「黒島小・中学校のあり方検討委員会」

第6回「黒島小・中学校のあり方検討委員会」を開催しましたので、以下のとおりお知らせします。

1 日 時 平成29年5月8日（月）19：00～21：00

2 場 所 黒島小・中学校校長室

3 参加者 濱田・大村・松崎・山内・惣田・高田・木下・山崎・戸田

4 協議事項

（1）新年度の委員について

○育友会総会の役員決定を受け、田代輝美さんと山内雅美さんが新しく就任。

（2）校章について

○市教委説明では、校章は今のまま二つのままでも良いし、新しく統一しても良いとのこと。

○校章が2つの場合は校旗も2つ必要。卒業式等での会場にも2本飾る。中体連など様々な行事の入場行進にも2本持つ必要が出てくる。

○黒島小学校の8つの波は8つの地区を表し、内側の6つ円は、6学年を表している。黒島中学校の校章の花はハマユウで、ハマユウの花のように、清い心を持ち、皆で力を合わせ、心のつながりをいつまでも強く持ち続けてほしいという願いが込められ、地色のこげ茶には黒島の子もたちのたくましい肌色から、何事にもくじけない人に育ててほしいとい

- う願いが「中」の字の上下の旗は社会人となった時に、それぞれの旗印を挙げ社会の役に立つ人になってほしいという願いが込められている。
- 学校名も黒島小中学校という要望を市教委にしており、校歌も小中学校とも残したいという意向。校章は新しく決めてもいいのではないか。
 - 校章が一つであれば、体操服を小学校から中学校へ買い換えずに継続して使い続けることができる。
 - （結論として）児童生徒に募集し、デザインを考えてもらう。それを集約し、本委員会で決定する。それを基に、大人の目で修正をしてもらう
ということにする。採用された児童生徒には記念品を渡す。

(3) 校歌と愛唱歌について

- 校歌は小・中学校とも残すことは以前の協議で確認している。
- 愛唱歌は作る意味や作った後の歌う機会を考える必要がある。作ったが歌わないということがないようにしなければならない。
- 作った後、どのようにして町民へ浸透させるかが課題である。
- 以前「はまゆうの歌」という曲があったが、歌われなくなってしまった。
- 落成式で歌うことも大切である。
- 何十万円・何百万円という費用を使う理由や価値が見いだせない。そのような費用があるなら他にもっと有効に使った方がいい。
- 黒島小中学校の愛唱歌ではなく、黒島の愛唱歌であれば、学校だけではなくウェルカムハウスなど、様々なところで流すことができる。人の耳にいつも入れていかなければ歌は根付かない。
- サンディトリップという地元佐世保の歌手がいて、「あなただけの歌を作ります」という、ふるさと納税の返礼品の一つとして50万円で請け負っているということが長崎新聞に掲載されていた。観光名誉大使も務めているとのことなので、このことを利用できないだろうか。
- （結論として）愛唱歌は作る。黒島小中学校の愛唱歌ではなく、黒島の愛唱歌。教育委員会や観光物産振興局に依頼していきたい。サンディトリップに作ってもらうことを前向きに検討していきたい。

※議事録の詳細・このお便りは小学校のホームページに掲載しています。

※義務教育学校について御不明な点は黒島小学校まで御遠慮なくお問い合わせ下さい。（電話：56-2005【担当：木下教頭】）

